第３次有明圏域定住自立圏共生ビジョン(案)に対する市民意見募集の結果について

令和３年度から７年度までを計画期間とする「第３次有明圏域定住自立圏共生ビジョン」を策定するにあたり、ビジョン案に対する市民意見募集を下記のとおり実施しました。

１．市民意見募集の実施状況

（１）実施期間　　令和２年 12 月 10 日（木）～令和３年１月 15 日（金）
（２）周知方法　　広報おおむた、市ホームページへの掲載、愛情ねっと、ちょうどよ課による情報発信
（３）閲覧場所　　総合政策課、情報公開センター、各地区公民館（中央、三川、三池、勝立、吉野、駛馬、手鎌）、市立図書館、えるる
（４）提出方法　　郵送、持参、ファクス、電子メール
（５）募集結果　　３名から７件の意見が提出されました

２．提出された意見に対する市の考え方（意見の内容については要約して記載）

■ビジョンに反映するもの

No.	ビジョンの関連箇所	意見の内容	市の考え方
1	（41 ページ～） 第４章　将来像の実現に向けた具体的取組	事業に関して、基幹事業に関する事業費見込みの算出は理解出来るが、その他の事業に関する見込みが 0～数万円/年度というのは、市民に対して誤解を招かないだろうか。情勢に応じて柔軟に対応されると思うが、この金額に縛られて事業の優先度やスピードが逆に落ちてしまうなど、本末転倒な指針となる冊子にならないように期待する。	掲載している各事業の予算額につきましては、現在の見込み額で記載しており、各自治体での毎年度の予算編成時には、事業の進捗状況に合わせて改めて事業費の検討をすることとしております。 ご意見の事業費については、再度事業費の精査を行うとともに、事業によっては多くの予算を伴わず実施できるものもあるため、注釈をつけるなど、誤解を与えないような表現に修正します。 事業の推進にあたっては、予算額だけにとらわれることなく、各自治体と連携し、より効果的な取組みを実施できるよう努めて参ります。

2	（3ページ～） 第２章 １．各市町の概況 （１）大牟田市	大牟田市の概況の中に「SDGs 未来都市」という言葉が出てこない。SDGs 未来都市に認定された事は、世界からグローバルに注目されるのだから、誇り高く、追記して頂きたい。	ご意見を参考に、第２章の大牟田市の概況に「SDGs 未来都市」、「映画いのちスケッチ」、「三池港」に関連する内容を追記します。
3		主な地域資源の３つの中の「大牟田市動物園」の文中に、2019 年秋公開の映画いのちスケッチの事も書くべき。大牟田市の映画観客数の記録を作り、市民が応援した映画だった。	
4		主な地域資源の３つめ「三池港」も追記して頂きたい。光の航路は、最近、一番の人気スポットである。三池港の利用コンテナ数は増えてきている。	

■参考意見とするもの

No.	ビジョンの関連箇所	意見の内容	市の考え方
1	（42～43 ページ） 第４章 （１）医療 ①休日急患診療体制の確保	せっかく県を超えて定住自立圏構想を掲げながら、この分野では相変わらず県ごとの医師会単位での弊害が出ていると思う。 何故、荒尾の医師会と連携することができないのか。日常生活や仕事などでの行き来はこの圏域では密接不可分になっている。行政が、どう橋渡しして、住民の暮らしを良くするのかという視点で、もう少し突っ込んだ視点での具体的取組を進めていただきたい。	地域医療における医師の確保や急患診療体制の維持など、様々な課題に対応していくためには、行政と地域の医師会との連携が大変重要であると認識しています。 本圏域は複数の医師会で管轄されており、ビジョンの取組みは大牟田医師会が管轄する大牟田市とみやま市（うち旧高田町）で実施しております。 そのような中、眼科については大牟田医師会と荒尾医師会に所属する医療機関において、休日急患の診療が行われるなど連携されている診療科もございます。 県境を越えた連携については、医療圏が違うなど課題等があるため、休日急患の診療体制について各医師会と協議が必要であると考えております。

2	（46～49 ページ） 第 4 章 （3）教育・文化	教育・文化の取組みでは、図書館の相互利用推進だけではなく、中等教育・高等教育機関等の連携などを含めたほうが良いではないか。	第 3 次ビジョン案に係る教育・文化に関する取組みについては、大牟田市と連携市町との間で合意し、協定を締結した取組みについて記載をしており、教育機関については、「中小企業振興」の項目の中で、有明工業高等専門学校（以下、有明高専）との連携について記載をしております。 他の連携については、今後、連携市町と協議するにあたっての検討事項とさせていただきます。
3	（52～53 ページ） 第 4 章 （4）産業振興 ②中小企業の振興	地域中小企業の振興で有明高専との連携については、圏域内唯一の工学系高等教育機関の活用という観点で、さらなる予算の充実と連携を期待する。	企業が取り組む経営の効率化や技術の高度化等による企業の競争力強化に向け、引き続き、有明高専との連携を進めるとともに、厳しい財政状況ではありますが、できる限り関連予算の確保に努めて参ります。